来賓挨拶３．林　幸秀　文部科学省文部科学審議官

ただいま御紹介いただきました、文部科学省の文部科学審議官の林でございます。まず最初に、中国総合研究センターが無事発足し、それを記念しましたシンポジウムが、かくも盛大に開催されますことをお祝い申し上げたいと思います。

我が国は人口の割に資源が少なく、国土も狭いため、頼りとなるものは知恵、特にものづくりを中心とした科学技術の振興であるというふうに思っております。科学技術の振興に関しては、従来、ともすれば欧米にその範を求めるという傾向が続いてきましたけれども、これからは欧米だけではなく、中国、あるいは韓国といった近隣のアジアの国の科学技術情勢というものに十分注目していく必要があるというふうに考えております。とりわけ中国の近年の経済発展には目を見張るものがあり、また中国の人材の潜在的な能力の高さからしましても、科学技術においては、今後、相当長期間にわたりまして、我が国の競争相手、ライバルといいますか、あるいは協力相手として注視していく必要があるという国であると確信をしております。

その意味で、今回のＪＳＴによる中国総合研究センターの発足というのは、まことに時宜を得たものと思っております。センター長になられました馬場さんは、読売新聞で長く、科学技術担当の論説委員をされておりましたし、知的財産の世界においても非常に詳しい方でございます。さらには中国にも、度々、御訪問され、中国の科学技術関係の情報にも非常に明るい方でございますので、まさしく適任だと思っております。

このセンターが馬場センター長のもとで日中の情報交流に大きく貢献され、双方の科学技術の発展に供されることを祈念しまして、また、本日のシンポジウムが実り多いものになりますよう、あわせて祈念いたしまして、非常に簡単ではございますが、私のあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。